

平成25年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成25年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

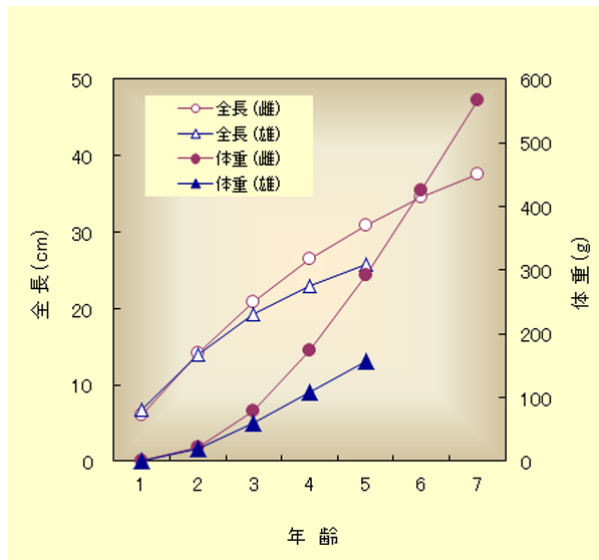
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳以上
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場: 日本海西部
食性: エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
捕食者: 不明

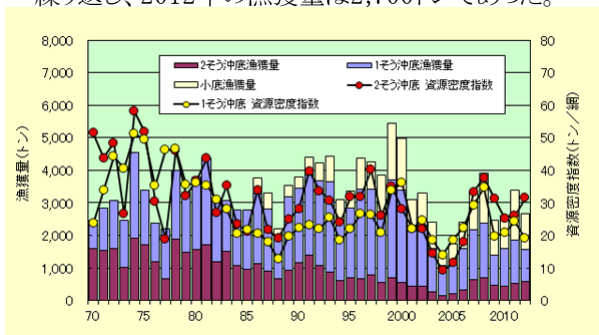


漁業の特徴

日本海西部海域では、ほとんどが1そうびき及び2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によって漁獲される。1990年代前半までは沖底の漁獲量が総漁獲量の80～90%を占めていたが、近年は小底による漁獲割合が40%前後まで増加した。

漁獲の動向

漁獲統計が整備された1986年以降では1999年に5,000トンを超えるピークが認められる。その後急減して2004年に最低の1,500トン未満まで減少したが、2008年には4,000トンに増加、2009～2010年に減少、2011年に増加と変動を繰り返し、2012年の漁獲量は2,700トンであった。

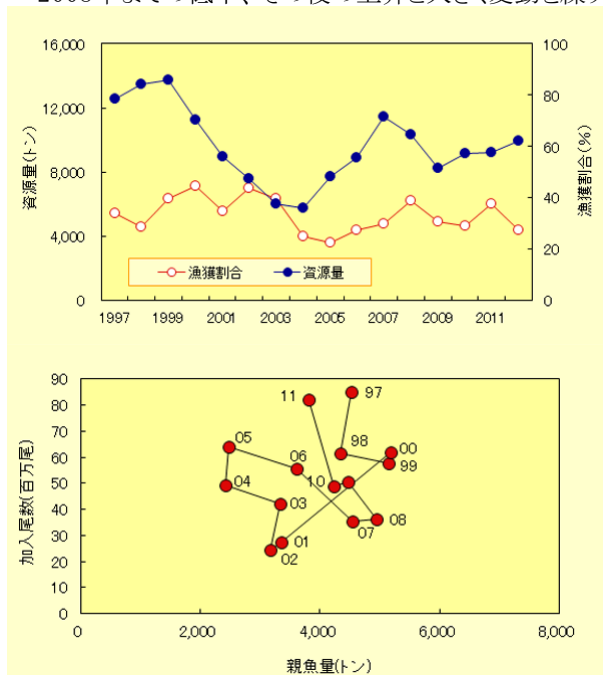


資源評価法

漁獲量の大半を占める1そうびき沖底及び2そうびき沖底の漁獲統計資料から求めた資源密度指数とともに、コホート解析により資源評価を行った。

資源状態

コホート解析で推定した資源量(1歳以上)は1999年の14,000トンから2004年には5,800トンまで減少した後2007年は11,000トンと増減を繰り返し、2012年は9,900トンと推定された。漁獲割合は2005年に最低の23%となり、2008年には39%と増減を繰り返している。再生産成功率(加入量÷親魚量)も、1997年から2002年までの低下、2005年までの上昇、2008年までの低下、その後の上昇と大きく変動を繰り返している。

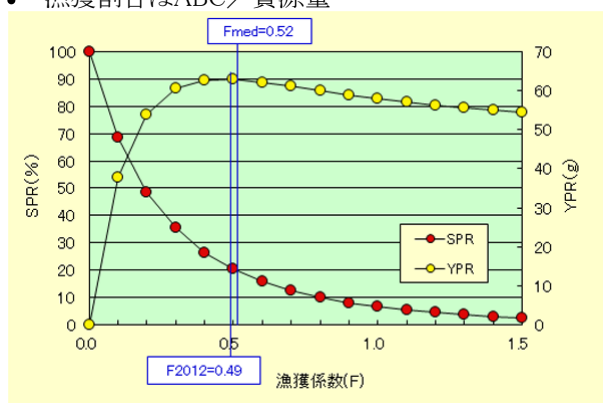


管理方策

2012年の親魚量はBlimitを上回っている。2012年のFはFmedよりも若干低い。現状の資源水準の維持を目標とし近年の再生産成功率が継続した場合に、資源量の維持が期待できる漁獲量をABClimit、不確実性を見込みそれよりやや少ない漁獲量をABCtargetとした。ABCの算定のためには、基本規則1-1-(1)を使用して、FlimitとしてFmedを、FtargetとしてFlimitに0.8を乗じた値を用いた。

	2014年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	34百トン	Fmed	0.52	34%
ABCtarget	29百トン	0.8Fmed	0.41	29%

- F値は各年齢のFの単純平均
- 漁獲割合はABC／資源量



資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は減少
- 資源量と再生産成功率は大きく変動している

管理方策のまとめ

- 近年の再生産成功率が継続した場合に資源が維持できる漁獲圧にとどめる
- 若齢魚に対する漁獲を低減させる必要がある

執筆者: 木下貴裕・藤原邦浩

資源評価は毎年更新されます。